

本時のねらい

- ・ショートカットキーを使いコピーやペーストの機能を知る。
- ・話の組み立てに気をつけながらスピーチを考える。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・コピーとペーストの機能を使うことで、前時に作成した情報カードを基に文章を組み立てやすくなる。
- ・友達を紹介するための資料を、大型モニターに映しスピーチすることで視覚的に分かりやすくする。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・大型モニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○本時の課題をつかむ。 ・文章組み立て ・レイアウト ・発表 ・振り返り	○大型モニターで見本を見せイメージしやすくする。
展開 (35分)	○コピーとペーストの機能を知る 【写真 1】 ○スピーチの内容を作成する ・得意なことや性格などについて、聞き手が分かりやすいように組み立てる。 ○スピーチをする 【写真 2】	○コピーとペーストの機能の使い方を、大型モニターに映しながら指導する。 ○前時に作成した情報メモを利用することで、本時の作業のスピード化を図る。 ○大型モニターに映し視覚的に支援する。
まとめ (5分)	○本時の振り返りをする。 【写真 3】	○振り返りをロイロノートで作成・提出し、全体で共有する

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】課題を確認し、コピーとペーストの機能について理解する様子



【写真 2】作成した資料を大型モニターに映しながらスピーチを行う様子



【写真 3】振り返りを大型モニターに映しながら発表する様子

児童生徒の反応や変容

- ・一度作成した文章を簡単に利用できることを知り、長い文章を作成することに抵抗がなくなった様子が見られた。
- ・コピーとペーストの機能を利用すると、タイピングをする量が減るため文章の確認や校正に時間を取ることができ、より伝わりやすい文章にしようとする姿が見られた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・便利な機能を知っておくと、時間短縮になるだけでなく、児童の意欲向上につながる。
- ・ショートカットキーの活用を単独で伝えるだけではなく、学習中に自分の学習に必要なと感じさせると、すぐ理解して活用できるようになった。
- ・スピーチを発表する際、少人数であっても写真や資料を大型モニターに映すようにしている。聞き手側への視覚支援だけでなく、話し手側もより伝わる文章になるために、文章の校正や写真の選定を意識するように指導できた。